

3 年齢階級別の自殺者数の推移

年齢階級別の自殺者数の推移について、自殺統計をみると（第1-5図）、全体的に減少傾向にあり、60歳以上（注）が最も多く、40歳代、50歳代の順に多くなっている。

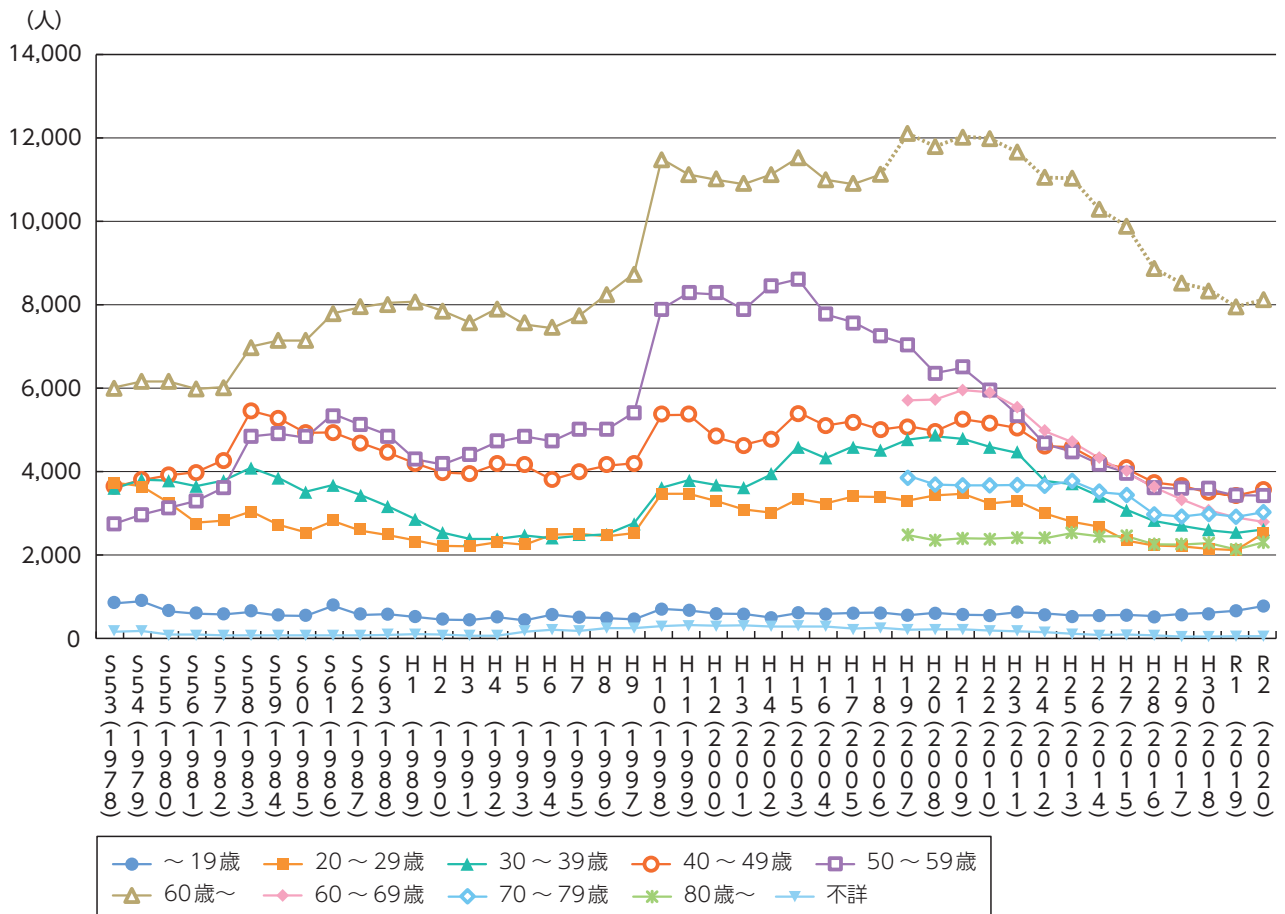
年齢階級別の自殺死亡率の推移をみると（第1-6図）、平成10年の自殺者数急増に伴い自殺死亡率も上昇したが、近年は全体的に低下傾向にある。

特に、40歳代、50歳代、60歳以上は、ピーク時から大幅に低下している。一方、20歳未満では平成10年以降おおむね横ばいで推移していたが、近年上昇傾向にある。20歳代や30歳代は、ピーク時から低下がみられるものの、減少率は40歳代以上と比べて小さくなっ

ている。また、40歳代、50歳代、60歳以上は、急増以前の水準より低下している一方、20歳未満及び20歳代は急増以前の水準に戻っていない。特に、20歳未満は近年上昇傾向にある。

さらに、男女別にみると、男性は、40歳代、50歳代では15年まで上昇傾向にあったが、16年以降は低下傾向にある。一方、20歳代が上昇傾向にあったが、23年以降は低下傾向にあり、30歳代は15年に更に高まった後、そのまま高止まりしていたが、22年以降は低下傾向にある。女性は、20歳代、30歳代、40歳代では上昇傾向にあったが、24年以降は低下傾向にある。

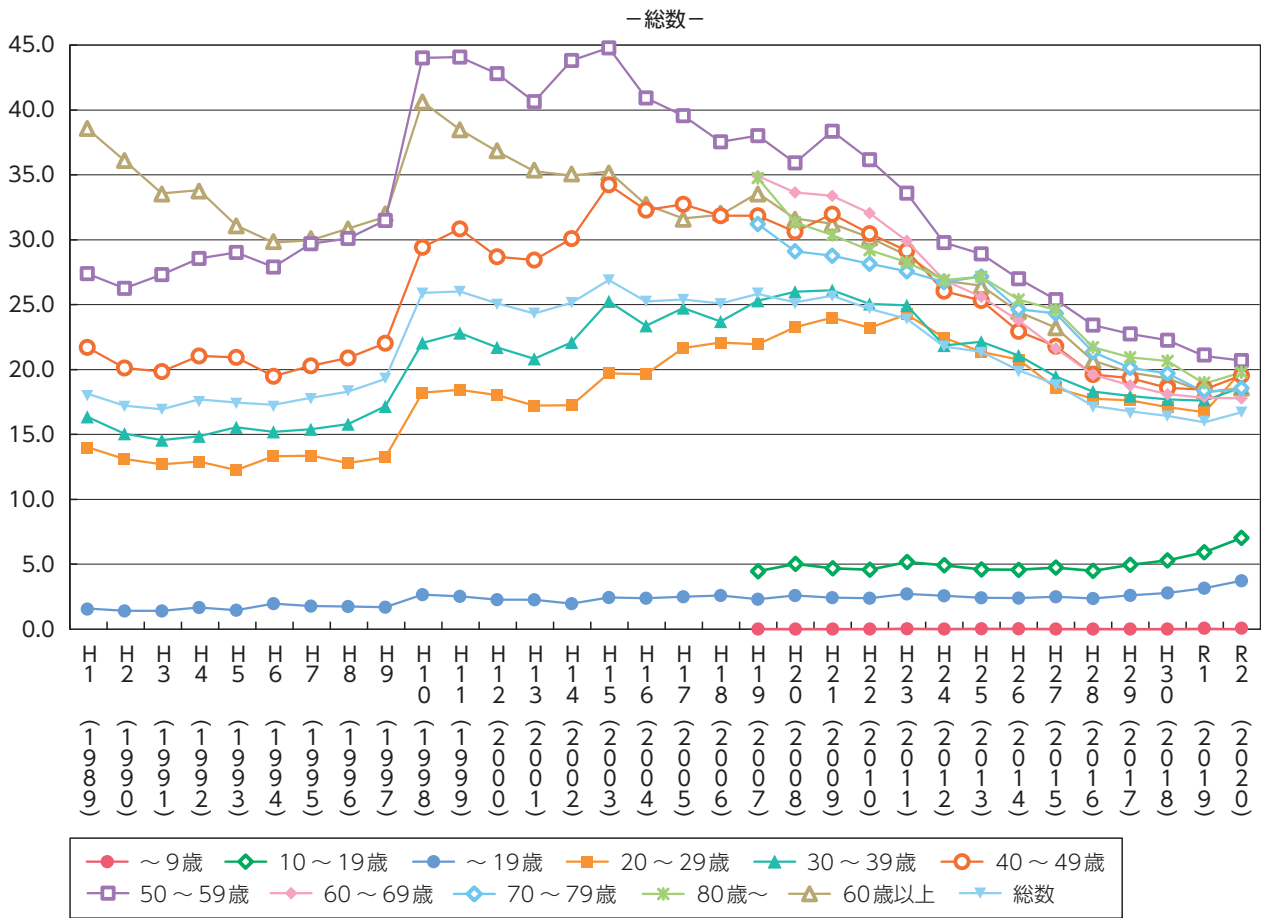
第1-5図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の推移

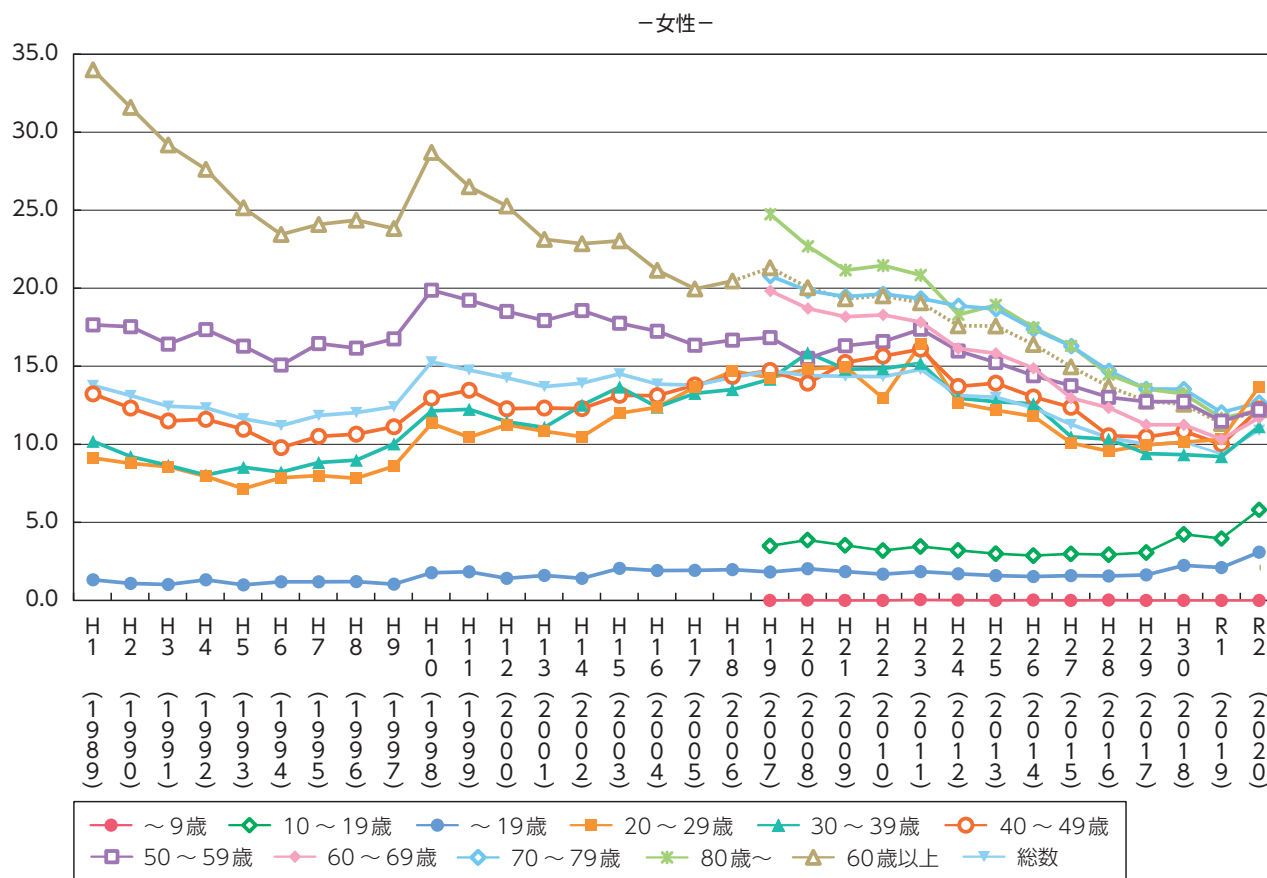
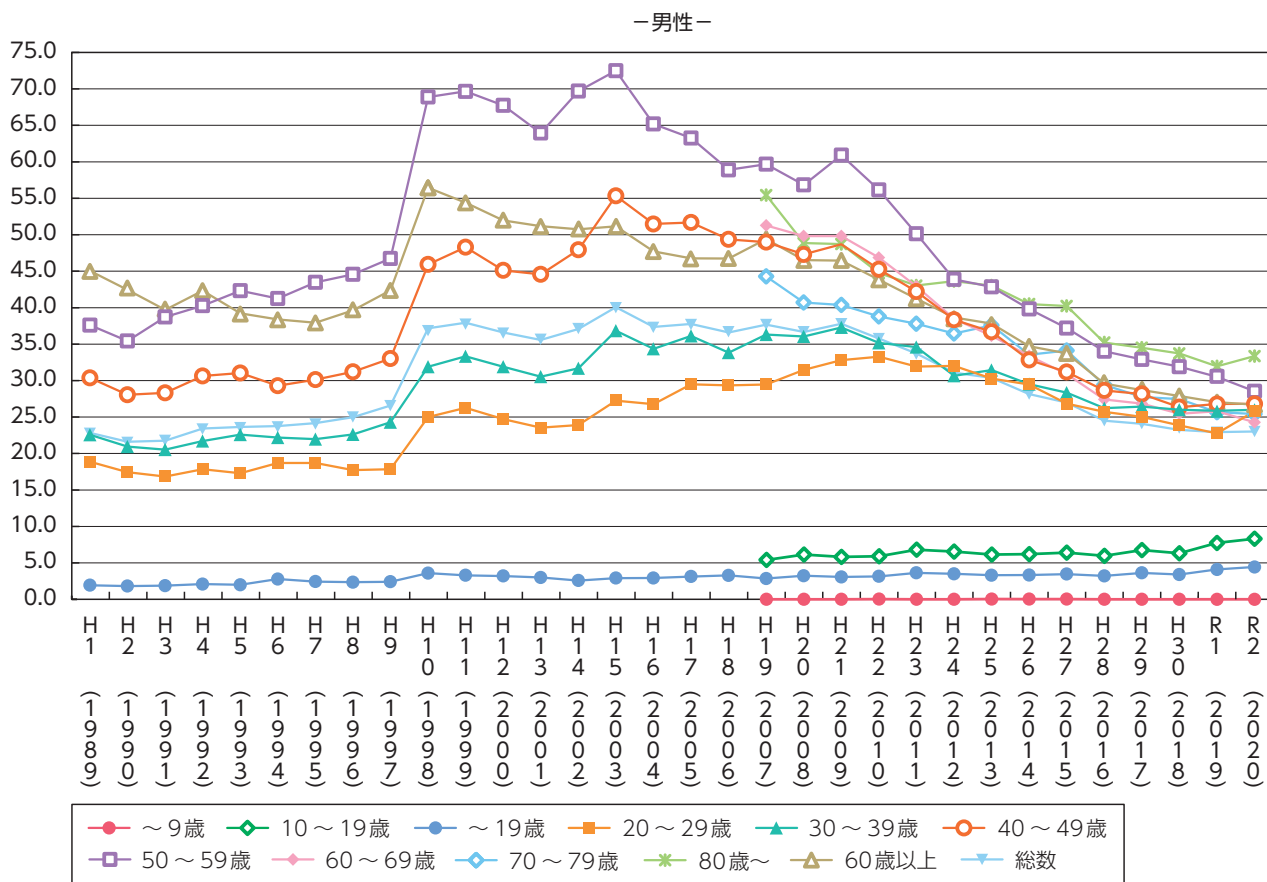


注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

第1-6図 年齢階級別の自殺死亡率の推移





注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。
 資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」(国勢調査実施年は国勢調査人口による)より厚生労働省自殺対策推進室作成

我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にある。年代別の死因順位をみると（第1-7表）、15～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっており、男女別にみると、男性で

は15～44歳において死因順位の第1位が自殺となっており、女性でも10～29歳で死因の第1位が自殺となっている。

第1-7表 令和元年における死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物<腫瘍>	98	1.9	23.0	自殺	90	1.7	21.1	不慮の事故	53	1.0	12.4
15～19歳	自殺	563	9.9	47.8	不慮の事故	204	3.6	17.3	悪性新生物<腫瘍>	126	2.2	10.7
20～24歳	自殺	1,040	17.4	50.9	不慮の事故	311	5.2	15.2	悪性新生物<腫瘍>	158	2.7	7.7
25～29歳	自殺	989	16.9	48.1	悪性新生物<腫瘍>	246	4.2	12.0	不慮の事故	223	3.8	10.9
30～34歳	自殺	1,145	17.7	38.4	悪性新生物<腫瘍>	512	7.9	17.2	不慮の事故	259	4.0	8.7
35～39歳	自殺	1,287	17.6	28.7	悪性新生物<腫瘍>	1,091	14.9	24.4	心疾患	409	5.6	9.1
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	2,238	26.2	28.6	自殺	1,498	17.5	19.2	心疾患	846	9.9	10.8
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	4,719	49.0	33.6	自殺	1,825	18.9	13.0	心疾患	1,699	17.6	12.1
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	7,254	86.1	37.1	心疾患	2,572	30.5	13.2	自殺	1,748	20.7	8.9
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	11,738	154.3	42.9	心疾患	3,461	45.5	12.6	脳血管疾患	2,016	26.5	7.4
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	19,308	259.1	45.8	心疾患	5,329	71.5	12.6	脳血管疾患	2,924	39.2	6.9

男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物<腫瘍>	61	2.3	25.8	自殺	47	1.7	19.9	不慮の事故	25	0.9	10.6
15～19歳	自殺	385	13.2	49.9	不慮の事故	154	5.3	20.0	悪性新生物<腫瘍>	55	1.9	7.1
20～24歳	自殺	748	24.4	52.3	不慮の事故	235	7.7	16.4	悪性新生物<腫瘍>	97	3.2	6.8
25～29歳	自殺	683	22.8	49.8	不慮の事故	173	5.8	12.6	悪性新生物<腫瘍>	131	4.4	9.5
30～34歳	自殺	865	26.2	44.1	悪性新生物<腫瘍>	207	6.3	10.6	不慮の事故	195	5.9	9.9
35～39歳	自殺	961	25.8	33.7	悪性新生物<腫瘍>	421	11.3	14.8	心疾患	317	8.5	11.1
40～44歳	自殺	1,127	26.0	23.1	悪性新生物<腫瘍>	878	20.2	18.0	心疾患	649	14.9	13.3
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	2,019	41.3	22.9	心疾患	1,335	27.3	15.2	自殺	1,319	27.0	15.0
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	3,476	81.7	27.5	心疾患	2,082	48.9	16.5	自殺	1,264	29.7	10.0
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	6,407	168.2	35.1	心疾患	2,812	73.8	15.4	脳血管疾患	1,418	37.2	7.8
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	11,950	324.5	40.9	心疾患	4,203	114.1	14.4	脳血管疾患	2,119	57.5	7.3

女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	43	1.7	22.6	悪性新生物<腫瘍>	37	1.4	19.5	不慮の事故	28	1.1	14.7
15～19歳	自殺	178	6.4	43.8	悪性新生物<腫瘍>	71	2.6	17.5	不慮の事故	50	1.8	12.3
20～24歳	自殺	292	10.1	47.7	不慮の事故	76	2.6	12.4	悪性新生物<腫瘍>	61	2.1	10.0
25～29歳	自殺	306	10.7	44.8	悪性新生物<腫瘍>	115	4.0	16.8	不慮の事故	50	1.7	7.3
30～34歳	悪性新生物<腫瘍>	305	9.6	30.0	自殺	280	8.8	27.5	不慮の事故	64	2.0	6.3
35～39歳	悪性新生物<腫瘍>	670	18.6	41.2	自殺	326	9.0	20.0	心疾患	92	2.6	5.7
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	1,360	32.4	46.5	自殺	371	8.8	12.7	脳血管疾患	199	4.7	6.8
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	2,700	56.9	51.7	自殺	506	10.7	9.7	脳血管疾患	425	8.9	8.1
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	3,778	90.5	54.8	脳血管疾患	530	12.7	7.7	心疾患	490	11.7	7.1
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	5,331	140.4	58.5	心疾患	649	17.1	7.1	脳血管疾患	598	15.7	6.6
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	7,358	195.3	56.9	心疾患	1,126	29.9	8.7	脳血管疾患	805	21.4	6.2

注) 構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

こうした状況は国際的にみても深刻であり（第1-8表）、若い世代（10歳代及び20歳代）で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国（G7）では日本のみである。

なお、10歳代では、アメリカ及びカナダの死亡率が日本よりも高くなっている。また、20歳代では、アメリカの死亡率が日本と同程度となっている。

第1-8表 先進国の年齢階級別死亡者数及び死亡率（10歳代及び20歳代、死因の上位3位）

10歳－19歳																	
	日本 2018				フランス 2016				ドイツ 2018				カナダ 2016				
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	
第1位	自	殺	602	5.4	不慮の事故	412	5.2	不慮の事故	334	4.3	不慮の事故	276	7.0	自	殺	232	5.9
第2位	不慮の事故		304	2.7	悪性新生物	180	2.3	自殺	192	2.5	自殺	232	5.9	悪性新生物		104	2.6
第3位	悪性新生物		225	2.0	自殺	152	1.9	悪性新生物	190	2.4	悪性新生物	104	2.6	自殺			

	アメリカ 2017				イギリス 2016				イタリア 2017				韓国（参考） 2019				
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	
第1位	不慮の事故		4,790	11.5	不慮の事故	329	4.4	不慮の事故	302	5.2	自殺	298	5.9	自殺	298	5.9	
第2位	自殺		3,005	7.2	悪性新生物	198	2.7	悪性新生物	192	3.3	不慮の事故	139	2.8	不慮の事故	139	2.8	
第3位	他	殺	2,002	4.8	自殺	165	2.2	自殺	85	1.5	悪性新生物	109	2.2	悪性新生物	109	2.2	

20歳－29歳																	
	日本 2018				フランス 2016				ドイツ 2018				カナダ 2016				
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	
第1位	自	殺	2,104	17.7	不慮の事故	1,030	13.8	不慮の事故	754	7.8	不慮の事故	1,071	23.6	自	殺	609	13.4
第2位	不慮の事故		571	4.8	自殺	575	7.7	自殺	714	7.3	自殺	609	13.4	自殺	609	13.4	
第3位	悪性新生物		400	3.4	悪性新生物	380	5.1	悪性新生物	409	4.2	悪性新生物	201	4.4	悪性新生物	201	4.4	

	アメリカ 2017				イギリス 2016				イタリア 2017				韓国（参考） 2019				
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	
第1位	不慮の事故		22,111	49.9	不慮の事故	1,211	13.8	不慮の事故	727	11.6	自殺	1,306	19.2	自殺	1,306	19.2	
第2位	自殺		7,815	17.6	自殺	741	8.5	自殺	301	4.8	不慮の事故	357	5.3	不慮の事故	357	5.3	
第3位	他	殺	6,114	13.8	悪性新生物	466	5.3	悪性新生物	290	4.6	悪性新生物	283	4.2	悪性新生物	283	4.2	

注：1) 「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡者をいう。

2) 死因順位の分類は人口動態統計と同様、死因簡単分類表を用いた。

3) アメリカ・カナダの人口は世界保健機関資料より最新データが得られなかったため、最新の死亡データに合わせて各国の国勢調査データを利用した。

資料：世界保健機関資料（2021年4月）より厚生労働省自殺対策推進室作成